

石川県漁海況情報

431号
2019年7月26日発行

石川県水産総合センター 電話 0768-62-1324 FAX 0768-62-4324
ホームページ <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/suisan/center/sigenbu.html>
携帯電話 http://www.pref.ishikawa.lg.jp/mobile/suisan/center/sigenbu_files/p-index.html



本号の概要

日本海スルメイカ長期予報（予報期間:8月～12月）

- 日本海全体の来遊量は前年および過去5年平均を下回る見込みです。
- 本県沿岸では漁場は形成されにくく、沖合の来遊量は前年および過去5年平均を下回る見込みです。

大型クラゲ情報（期間:7月5日～17日）

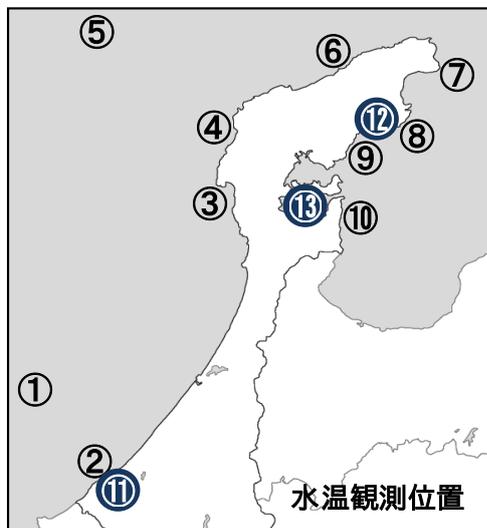
- 山口県の定置網で1,000個体を超える大型クラゲの入網がありました。
- 九州沿岸から本州沿岸を北上する経路をとると予想されることから、注意が必要です。

水産総合センター・トピクス

- 「トラフグの放流」

石川県周辺海域の水温（期間:7月14日～18日）

- **沿岸の海面水温** 7月18日の本県周辺（海岸線より30海里程度）の海面水温は24～26℃台で、過去5年平均との差は-0.5～+0.5℃程度でした。
- **沿岸観測ブイの水温** 今期の水温は22.1～23.2℃で、7月中旬から約1.0℃上昇しました。前年同時期との差は-2.9～+0.2℃、過去3年平均との差は-2.9～-1.2℃でした。
- **港内の水温** 今期の水温は23.4～25.4℃で、前年同時期との差は-3.4～-0.6℃、過去3年平均との差は-2.7～-0.5℃でした。



沿岸観測ブイの水温(深度10mの値)

観測位置	5日間平均 7/14～7/18	前年差	過去3年 平均差
① 橋立沖	休止中	データなし	データなし
② 橋立沿岸	23.2	+0.2	-1.5
③ 富来沿岸	22.9	-0.7	-1.9
④ 門前沿岸	22.1	-2.3	-2.9
⑤ 猿山岬沖	休止中	データなし	データなし
⑥ 曾々木沿岸	22.4	-2.9	-2.9
⑦ 小泊沿岸	22.9	データなし	-1.9
⑧ 小浦沿岸	23.1	-0.8	-1.4
⑨ 鷯川沿岸	23.1	-0.6	-1.2
⑩ 岸端沿岸	23.0	-0.6	-1.2

港内の水温(深度1.5m・午前9時の値)

観測位置	5日間平均 7/14～7/18	前年差	過去3年 平均差
① 橋立港	24.3	-3.4	-2.7
② 宇出津港	23.4	-0.6	-1.1
③ 石崎港	25.4	-1.2	-0.5

日本海スルメイカ長期予報（予報期間:8月～12月）

■ **来遊状況** スルメイカ漁場一斉調査が6月中旬から7月上旬に行われました。石川県の調査船白山丸の他、北海道から鳥取県の7道県と日本海区水産研究所の調査船が合計65定点でイカ釣り操業を行い、スルメイカの分布や魚体サイズ(外套長)を調べました。全調査点の釣機1台1時間当たりの釣獲尾数(CPUE)の平均値が来遊量の指標になります。今年平均CPUEは7.40尾であり、前年(10.16尾)および過去5年平均(15.31尾)を下回りました。従って、今年の来遊量は前年および過去5年平均を下回っていると判断されます。

■ **分布状況と魚体サイズ** 隠岐諸島から能登半島までの沿岸、並びに北海道沿岸ではCPUEは比較的高かったものの沖合域や本州北部沿岸ではCPUEは極めて低く、スルメイカが漁獲されない定点もありました。今年は前年および過去5年平均に比べて、外套長17cm以上の個体の分布量が少なく、例年ほとんど漁獲されない16cm未満の個体の分布量は多く、全体として魚体が小さいことが分かりました。

■ **太平洋側の分布状況** 太平洋側に分布するスルメイカは10月以降、宗谷海峡および津軽海峡を經由して日本海に来遊するため、太平洋側の分布状況は10月以降の日本海の漁況に影響します。太平洋スルメイカ長期漁況予報によると、8～9月の来遊量は常磐～三陸海域と津軽海峡～道東海域で前年を下回ると予想されています。

■ **漁況の見込み** 以上より、日本海全体では今期の来遊量(漁獲量)は前年および過去5年平均を下回ると予想されます。海域別の来遊量の予想は以下のとおりです。

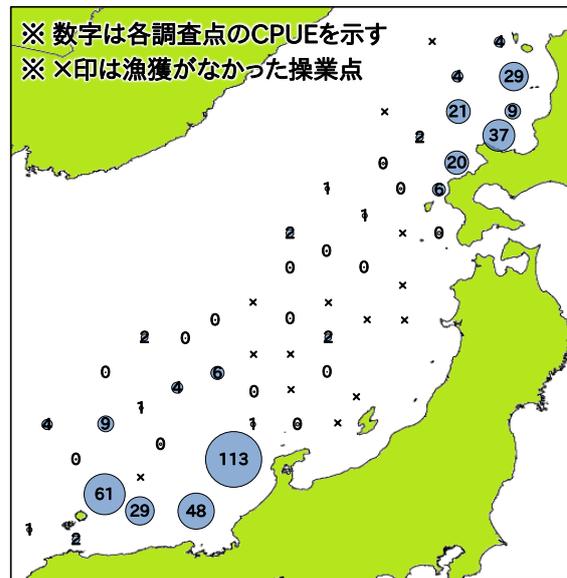
道北・道央:前年および過去5年平均を下回る。

道南・津軽:前年並みで、過去5年平均を下回る。

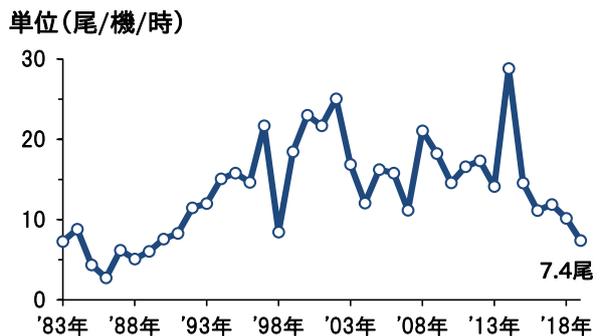
本州北部日本海および西部日本海:近年同様、漁場は形成されにくい。

沖合域:前年および過去5年平均を下回る。11月まで道西沖、11月以降は大和堆付近が漁場となる。

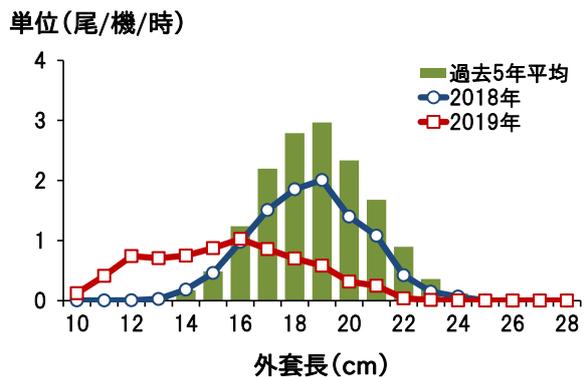
今年の漁場一斉調査時のCPUE分布



平均CPUEの経年変化



外套長別の平均CPUE



本予報の詳細については下記URLの資料をご覧ください。

日本海スルメイカ長期漁況予報： http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2019/20190725_n/

太平洋スルメイカ長期漁況予報： http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2019/20190725_t/

大型クラゲ情報（期間:7月5日～17日）

■ 国立研究開発法人水産研究・教育機構が7月9・10日に、一般社団法人漁業情報サービスセンターが7月8～18日に発表した大型クラゲに関する情報は次のとおりです。

日本海 7月16・17日に山口県の定置網で1,000個体(傘径50cm)を超える入網がありました。また、7月13・16日に島根県の定置網で200～400個体(傘径50～60cm)の入網がありました。なお、長崎県の定置網では日間差・地域差の大きいものの、入網(1～500個体/日)が続いています。

東シナ海 7月2・3日に上海・大阪間の国際フェリーによる目視調査では、上海沖と済州島南沖から壱岐南沖全域で集群が目撃されました。上海沖では傘径は20～50cm、最大密度は1.42個体/100m²でした。済州島南沖から壱岐南沖全域では傘径は20～80cm、最大密度は2.33個体/100m²でした。

黄海 7月6～8日にピョンテク(韓国)・連雲間(中国)の国際フェリーで行われた目視調査では、黄海中央部で小規模な群が目撃されました。傘径は20～50cm、最大密度は0.012～0.015個体/100m²でした。

対馬海峡 7月7日に国際フェリーで行われた目視調査では、対馬海峡東水道で303個体、西水道で31個体目撃され、傘径は30～80cmでした。

■ 山口県の定置網では1,000個体を超える大型クラゲの入網となっています。今年は九州沿岸から本州沿岸を北上する経路をとると予想されることから、石川県でも注意が必要です。水産総合センターでは今後も大型クラゲの出現情報を収集・提供してまいります。大型クラゲの目視・入網情報等がありましたら、水産総合センターまでお知らせください。

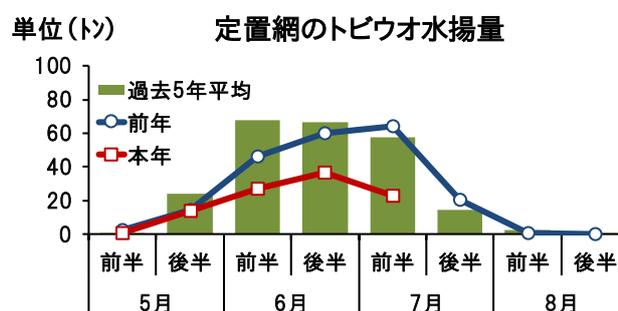
石川県主要港の水揚げ状況（期間:7月1日～15日）

■ **定置網** ガンド・カタクチイワシ・マイワシ・アカイカは前年を上回り、サワラ・サゴシ・マアジ・フクラギ・コゾクラは前年を下回りました。トビウオは27トン水揚げされました。5月前半から7月前半までの累計は101トンで、前年(188トン)および過去5年平均(216トン)を下回りました。

■ **まき網** ウルメイワシ・マアジは前年を上回り、サバ・マイワシ・ブリは前年を下回りました。

■ **底びき網・ごち網** 沖合底びき網のアマエビは前年並みでした。

■ **刺し網・釣り・その他** フグ類は前年並み、ベニズワイガニ・サザエ・マダコ・アマダイは前年を下回りました。



集計期間 7月1日～7月15日 (水揚量の単位はトン)

魚種	水揚港							期間合計	
	橋立	金沢	富来	輪島	珠洲地区	宇出津	七尾地区	本年	前年
定置網									
がんど		0.1	0.0	0.0	51.3	47.8	0.7	99.8	13.5
さわら・さごし	3.6	1.0	43.6	0.2	0.3	1.3	7.3	57.1	80.5
まあじ	2.6	1.0	2.6	1.8	6.1	11.4	11.3	36.9	71.2
かたくちいわし						0.7	31.8	32.5	8.9
とびうお	0.9	0.0	4.1	3.8	1.7	5.5	10.9	26.8	64.3
ふくらぎ・こぞくら	0.9		3.8	1.1	1.1	1.7	7.5	16.3	20.4
しいら	1.3		12.6	0.7	0.3	0.3	0.2	15.5	15.6
まいわし					0.0	7.4	6.6	14.0	8.1
するめいか	0.0		0.1	0.1	1.2	7.3	3.8	12.5	3.1
あかい(ケンサキイ)	2.7	0.0	2.8	0.5	0.4	1.4	0.6	8.5	2.2
その他	2.4	0.7	4.7	2.2	5.2	8.9	17.7	41.9	82.5
合計	14.3	2.8	74.4	10.4	67.7	93.8	98.4	361.8	370.3
まき網									
さば	—	0.0	261.3	34.2		—	0.0	295.5	594.4
うるめいわし	—		163.8	0.6		—		164.4	51.6
まいわし	—		149.0	0.2		—		149.2	1158.9
まあじ	—	0.0	113.5	23.7		—	0.0	137.2	51.5
ぶり	—	41.2				—	2.1	43.3	101.7
その他	—	28.0	0.3	1.8		—	6.1	36.2	21.8
合計	—	69.3	687.9	60.5		—	8.2	825.9	1979.8
底びき網・ごち網									
あまえび		12.3			0.9		—	13.2	14.1
はたはた		0.7			6.9		—	7.6	1.5
まだい	0.9		0.4				—	1.3	1.7
さこだい(サグイ)	0.7		0.1				—	0.7	0.9
にぎす					0.5		—	0.5	0.0
その他	0.1	0.5	0.1		1.1		—	1.8	2.9
合計	1.7	13.5	0.5		9.5		—	25.2	21.1
刺網・釣り・その他									
べにずわいがに			24.9	1.1				26.0	35.0
さざえ	1.5		1.6	0.0	1.0	3.5	3.0	10.7	20.9
まだこ	0.0	0.0		1.7	0.7	3.0	3.8	9.2	13.1
ふぐ類	0.0	0.0	4.0	1.0		0.0	0.0	5.0	4.5
あまだい	0.9	0.1	0.1	2.3	0.3	0.0	0.1	3.8	7.2
あかがれい						2.7		2.7	14.9
かわはぎ(カマヅラ)	0.1		0.0	1.3	0.2	1.0	0.0	2.6	1.9
あからばちめ(ハツメ)				2.5				2.5	3.3
その他	4.2	3.5	3.5	8.7	1.7	4.7	4.7	31.0	159.5
合計	6.7	3.6	34.0	18.6	3.9	15.0	11.6	93.4	260.3
小型いか釣り									
するめいか20入り	0.0	15.7	12.4	1.5	0.1	0.0	0.0	29.7	16.0
するめいか25入り	0.0	45.8	31.2	3.9	2.8	0.7	0.0	84.4	55.9
するめいか30入り	0.0	23.1	18.8	5.9	4.5	2.6	0.0	54.8	39.1
するめいか40入り以上	0.0	5.9	10.3	9.9	2.6	3.6	0.0	32.2	9.0
合計	0.0	90.4	72.7	21.2	10.0	6.9	0.0	201.2	120.0
総計	22.8	179.6	869.5	110.8	91.1	115.6	118.2	1507.5	2751.5

注:宇出津は松波港を含む、富来・輪島は一部未集計

トラフグの放流

■ 日本海におけるトラフグの産卵場は若狭湾や八郎潟周辺などいくつか知られており、七尾湾もその一つで稚魚の育成場ともなっています。

■ 石川県沿岸ではトラフグの資源を増やすため漁業者による種苗放流が続けられており、今年も7月2日に志賀町赤崎漁港、七尾市能登島通漁港（七尾湾）でトラフグの稚魚約4万尾の放流を行いました。放流したトラフグは体長9cmほどで、能登島通漁港で放流したものについては、県や七尾市の職員、県漁協ななか支所の組合員14人が、追跡調査の目印になるよう2千尾の背びれを1匹ずつハサミで切除して放流しました。

■ トラフグは日本海を広く回遊し、親となって生まれた産卵場に帰ってくるとされており、放流したトラフグも大きく成長し石川県沿岸へ帰ってくることが期待されます。

■ 水産総合センターでは放流魚の移動や回収率を推定するため、七尾魚市場㈱や県漁協能都支所に協力していただき放流魚の水揚げ状況調査を行っています。トラフグの標識方法は県毎に異なっており、本県は背ビレの切除を、他県では胸ビレや尾ビレの切除、タグの装着などを行っています。水揚げされたトラフグにこれらの標識が確認された際には水産総合センターまでご連絡ください。

（内藤隆介）

七尾湾での稚魚放流の様子



放流したトラフグ稚魚



背緒を切除したトラフグ

